みどりとひと

no.150
2010年(平成22年)
1月20日発行

150号記念特集
「みどりの新聞」から見る杉並の変化

落ち葉感謝祭2009
環境博覧会すぎなみ2009

生けがき道づくり
みどりのベルトづくり

園芸ワンポイント

「みどりとひと」150号という記念すべき号の編集にあたり、私たち編集委員は「樹木の今昔」を企画してみました。

20年前、絵本のモデルになった保護樹木として「みどりのしんぶん」に紹介された2本のケヤキ。そのケヤキは現在、どのようになっているでしょうか。元気に育っているでしょうか。

(2面につづく)

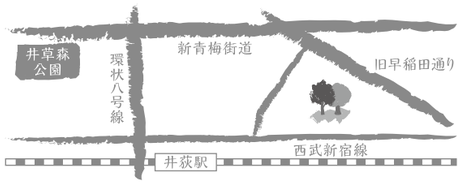
絵本になったけやきは今…

当時の新聞No.78
（平成元年10月発行）

ケヤキから生まれた「けやきとけやこ」の一生のものがたり

なんと幹周り4m50cm!!
20年前に比べて
68cmも成長

森田家第14代隆氏
を囲んで第15代目
のご子息夫婦



＊個人宅につき邸内には立ち入れませんが、道路からは観賞できます。

秋のある日、ケヤキの持ち主、森田隆氏の取材許可を得て、期待に胸をふくらませながら訪れることになりました。手入れの行き届いた前庭を通り家屋の裏手に回るとそこには、樹齢270年の貴重木(高さ約26m、幹周り4m50cm)が天を突くばかりに堂々とそびえていたのです。正面左手の保護樹木(高さ約30m、幹周り3m40cm)も、青年のようにスマートに立っていました。まさに『欅』という字にふさわしい自然な樹形です。

園芸種の植物研究や育成を行っているみどり好きのご当主は、邸内の樹木の維持管理をほとんどご自身で行っていますが、当のケヤキについては背丈が大きいこともあり、数年ごとに専門の剪定業者に手入れを依頼しているそうです。このケヤキを材木業者が売ってほしいと何度も声をかけてきたそうですが、先代同様にご当主は頑なに断り続けています。また以前は、近所の住人から落ち葉の苦情もありましたが、ご当主がこまめに掃除や樹木の剪定を行った努力の結果、今ではケヤキの存在が認められ大切に思われるようになりました。

～ おーいケヤキ、いつまでも元気で
杉並の街を見守っておくれ！～

善福寺川沿いのさくら

善福寺川緑地から和田堀公園へと続く川沿いの道は、区内でも屈指のお花見ポイントとして人々に愛されてきました。400本以上のサクラが満開となる頃の見事な景観は、“みどりの新聞”でも何度かとりあげています。

◀当時の新聞 NO.55
（昭和60年2月発行）

『御供米橋から下流方面を見る』
太くなったサクラの枝ぶりに20年の歳月を感じます。このあたりは、時折カワセミが姿を見せることもあり、豊かな自然を楽しめる地域となっています。

『せきれい橋のたもと』
サクラとともに春の公園を彩る白モクレン。取材時には青々と葉が茂り、春の写真とは全然違う印象です。枝先にたくさんついているビロードのような花芽を見ると、また来春も見事な花を咲かせて人々を楽しませてくれると期待が膨らみます。
白モクレンの手前に写っているニセアカシアの木は、切られて切り株が残っていました。そして切り株の洞には、はやばやとガマガエルが眠っていました。

◀当時の新聞 NO.80
（平成2年2月発行）

◀当時の新聞 NO.122
（平成14年3月発行）

『児童橋から下流方面を見る』
川の上に枝を張り伸ばしている桜の並木。その下を大人も子供ものんびりと行き来しています。何年たっても変らない川辺の風景です。

区の木アケボノスギ

阿佐ヶ谷駅南口広場にひときは高いアケボノスギがそびえています。毎年年末には地元商店街の住民により飾り付けられたイルミネーションが見られます。これは昭和52年（1977年）のみどりの日に植樹祭が行われ、地元のこどもたちが参加して植樹しました。あれから32年、杉並区民を見守ってきました。

また昭和57年（1982年）には区政50周年記念行事として梅里中央公園において、作家・松本清張氏を迎えてアケボノスギを植樹され、現在に至っています。

アケボノスギ（メタセコイア）

スギ科メタセコイヤ属の高木。針葉樹としては珍しい落葉樹。枝・葉は対生。1943年に中国四川省の山奥で生きた個体が発見され、「生きた化石」として話題を集めた。昭和48年（1973年）11月に区の木に選定。

▲阿佐ヶ谷駅前のアケボノスギ

▼梅里中央公園のアケボノスギ

◀当時の新聞 第17号
（昭和52年8月発行）

当時の写真 第42号▶
（昭和57年8月発行）

ほ～ほ～ほ～たる来い

「蛍の光　窓の雪…♪」と唄われたように、日本ではいたるところで見られたほたる、緑豊かな善福寺池附近でも昭和30年頃までは見られたのですが、その後高度成長期に入り、環境の悪化で杉並区では姿を消してしまいました。

上池の渡戸橋から下池に結んでいる水路に、現在も金網が張られているのが見られます。これは昭和56年よりそこへ放流していた〝へいけぼたる〟の幼虫を守るために、昭和60年に作られたものです。昭和61年には幼虫5千匹を放流した記事も本誌62号に見られ、平成元年発行の本誌77号にもほたるの記事があるので、その頃まで蛍の光があったようです。

現在では、上池と下池を結ぶ水路に、ほたるの餌になるカワニナはある程度生息していますが、ほたるが生息するには水の量が少ないようです。水路の水量を増やし確保し、護岸まわりの整備を行えば、再びほたるの姿を見られる日は、そう遠くないかもしれません。

▼善福寺公園下池・水路の現在の様子

当時の写真 第62号▶
（昭和62年8月発行）

みどりの新聞 移り変わり

みどりの新聞は昭和48年に産声を上げ、おかげさまで36歳になりました。当初は町の掲示板に貼っていましたが、現在では区内町会・区立施設に回覧・配布し、各号の発行部数は17,500部となりました。ここでは、これまでの歩みを振り返り、みどりの新聞の移り変わりをまとめてみました。

今後さらに〝みどりと杉並区の大好きなひと〟が増えることを期待しつつ、私達編集委員は、みどりの新聞づくりに邁進します。

No.1～50

「みどりの条例」制定にあわせて、昭和48年11月に創刊。おもな内容は、区の仕事のPR・報告でした。途中、寄稿コーナーを設け、区民の方々からのみどりに対する声を紹介しました。

なお、当時の記事で掲載した、樹木・樹林の保護制度、学校の塀の生け垣化、生け垣協定、みどりの育成協定、緑化副読本などの事業は、現在も引き続き行っています。

<新聞名>
No.1～7「みどりの壁新聞」
No.8～50「みどりの新聞」
（昭和48年11月～昭和59年2月）

No.51～100

誌面を現在と同じ4ページに増やし、内容が充実。写真の持つインパクトを活かし、1面では季節ごとのまちで見かけたみどりのある風景をはじめ、美しい花や巨木などをクローズアップしました。2面以降は、園芸や工作に関することや剪定の仕方など、みどりの楽しみ方や育て方など紹介しました。

<新聞名>
No.51～60「みどりの新聞」
No.61～100「みどりのしんぶん」
（昭和59年5月～平成6年2月）

No.101～149

No.120からタイトルを、現在も使用している〝みどりとひと〟に。No.123からはみどりのボランティア杉並との協働編集がスタートしました。No.129から誌面がカラーになり、写真の良さを引き出しました。また、1面の特集連載がスタート。様々な角度から〝みどり〟をとらえ、紹介しています。

<新聞名>
No.101～110「みどりのしんぶん」
No.111～119「みどりの新聞」
No.120～現在「みどりとひと」
（平成6年5月～平成21年9月）

落ち葉感謝祭 2009
目指せ！1万人の落ち葉掃き

「落ち葉感謝祭2009」が、ボランティアなどの協力のもと、11月28日に開催されました。私たちに様々な恩恵を与えてくれる樹木に感謝を込めて、また、落ち葉を〝ゴミ〟にしないで自然の物質循環へ戻していこうという、「みどりのリサイクル」の考え方を広めるために始められたイベントで、今年で4回目を迎えました。

朝9時、中杉通りや井草森公園をはじめ、各会場に集合した参加者が、「落ち葉感謝祭」というのぼり旗を掲げていっせいに落ち葉掃きを行いました。また井草森公園では、子供に大人気の落ち葉プールが登場。ふかふかの落ち葉に飛び込んではしゃいでいる、子供達の姿が見られました。

「生けがき道づくり」モデル路線の募集

杉並区では「まちづくり百年の計」として、「生けがき」のあるまちなみ像の実現のため、「生けがき道づくり」モデル路線を募集いたします。生けがきは、みどり豊かな美しいまちなみを生み出すとともに、災害時には安全な避難路をつくります。また、防犯効果や地域コミュニティの向上も期待できます。「生けがき」をつなげることで、杉並の緑が点から線へと、また面となって、区内全域に〝みどりのベルト〟が広がっていきます。

〈モデル路線になると〉

生けがき設置費、塀の撤去費等、そのほとんどの費用について助成を受けられます。標準的な生けがきを設置した場合、費用が全くかからない場合もあります。

〈モデル路線になるための条件〉

事前に審査があります。概要は以下のとおりです。
道路幅が4m以上で、かつ生けがき等で緑化される部分が道の両側で連続して延長100m程度となるような道路であること。
整備後5年以上、生けがきを良好な状態に協力して維持できること、など。

■詳しくは区公式HP、またはみどり公園課みどりの事業係（☎3312-2111 内線3595・3596）までお問合せください。

環境博覧会すぎなみ2009

みんなでつくる環境世紀
地球を救え　すぎなみ省エネ作戦
～ 小さなエコから ～

10月17・18日の両日、高井戸地域区民センター&センター前広場にて、『環境博覧会すぎなみ2009』が開催されました。今回で9回目を迎え、環境団体・学校・企業などの協力により、環境について考え行動するための様々な催し物が行われました。緑に関するコーナーでは、「屋上緑化・生け垣見本の展示」、「身近な自然と生態系のパネル展示」、「竹細工・自然リース作り」などが出展され、子供から大人までが楽しめるイベントとなりました。

また昨年に引き続き、〝エコポイント〟を実施しました。これは来場者が企画の参加・体験に応じて集めたポイントを、会場内で使えるエコマネーに交換し、お買い物に使ったり、「杉並区みどりの基金」に寄付できる、というものです。基金へは2日間で18,600円分のエコマネーの寄附をいただきました。他にも、みどりのボランティアや区内造園業者有志の方々からも、基金への寄付にご協力いただきました。ありがとうございました。

「みどりのベルトづくり」リポート

「みどりのベルトづくり」（→メモ）として、11月末に第1号の緑化をまちの方と専門家の協力により行いました。訪れた方々は熱心に作業し、多くの質問もありました。植物は草花だけでなく低・中木も使用することで奥行きが生まれ、より豊かな空間になります。今後は、この緑化をお手本に、まちのみどりを広げていきます。

《使用した植物の配置》

メモ　自分のみどりとお隣のみどりをつないで、まちのみどりを広げていく取り組みです。平成21年4月に高円寺南二・四丁目と三丁目の一部をモデル地区に指定し、2商店会と協定を結んで事業を進めています。協定を結んだ商店会には緑化資材の一部を提供し、道路沿道の緑化をお手伝いします。

専門家に聞く 園芸ワンポイント

このコーナーで毎回アドバイスをいただいている「みどりの相談所」の、澤地先生には『相談所の相談傾向』、南澤先生には『冬から春にかけての植物の管理方法』についてお話を伺いました。

みどりに関する専門相談は
塚山公園みどりの相談所
☎ 03−3302−9387（くさばな）
毎週土・日曜日
午前9時〜午後4時30分

澤地 家治 先生

私は、塚山公園みどりの相談所で9年、その前には東京都の神代植物公園で8年、あわせて17年の間、みどりの相談業務に携わってきました。

相談は一年を通して春と秋に集中し、庭木に関することがもっとも多く、草花、山野草、果樹、野菜、観葉植物、洋ラン、盆栽などが続きます。内容は、植物の育て方、病害虫、剪定が半分以上、次いで肥料、培養土、花が咲かない、他に鉢物の植え替え・株分け、名前のわからない植物の鑑定などに分類できます。

最近では電話の相談より、直接来所しての相談が多くなっています。電話よりもお互い向き合って話しあったほうが、相談者の疑問を早く理解できます。その良い例が、植物の病気です。その物を直接持参してもらい、手にとってルーペで鑑定すると、病気の種類やどんな農薬がよいかのか、大体わかるものです。同様に、名前のわからない植物を知るのに、同じ庭木でも若い新葉と古い葉の違い、例えばヒイラギは厚くて硬い葉の縁には先がトゲ状になった鋭鋸歯があるが、老樹では多く鋸歯が無いなど、これらは実物を見ないと何とも答えられません。他に庭木の手入れが上手い業者の紹介や、お子さんの宿題でウノハナ匂う垣根の花の香りなど、様々な相談を受けます。みどりの相談で、相談者の生活の一コマがうかがえるのも、面白いものです。

南澤 乙亥 先生

私たちの心を癒してくれる草花が、年末から春先にかけて多く店頭に並びます。栽培にあたっては、その園芸的な分類を心得て、育てるようにします。

まず植物の耐寒温度を知ることが必要です。耐寒性とは、氷点下の気温に耐えることができるもの、半耐寒性とは、0〜5℃の寒さに耐えることができるものをいいます。

次に水のやり過ぎに注意します。植物のある場所が耐寒温度域である時は、鉢土が過湿になったり乾き過ぎないよう、適湿であるような水の与え方をします。

肥料の与え方にも注意します。冬に花つきが良く次々と花を咲かせ続ける植物や、部屋が暖かく生育し続ける植物を除いて、肥料をあげる必要はありません。肥料を与える時は、濃度の薄い液肥などを、暖かい午前中に水やりに併せて行います。

乾燥に気をつけます。暖房の効いた部屋では湿度は低くなるので、加湿器を用いたり、表面へ霧水をかけて適湿に近づけます。そして通風し、換気を良くします。過湿になることは、植物の生理に有害であり、室内の空気が動かないことは、酸素の量も少なくなり、植物の呼吸にも影響してきます。天気の良い暖かい日には、外の新鮮な空気を取り入れてやります。このように通風・換気を良くすることは、病害虫の発生防除にも有効です。

以上の点に気をつけて育てれば、草花は私たちの心を癒してくれることでしょう。

編集後記 「みどりとひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

- 開港150年を迎えたのは横浜、こちらは150号記念で、通常号より多い取材回数となりました。(中)
- 150号記念特集ということで、過去に掲載されたみどりの風景を探し求めて、デジカメ片手にみんなで区内をエッサホイサッサ。この残されたみどりを守り育てることの大切さを、改めて痛感しました。(羽)
- さて、記念すべき150号です。過去にとりあげた記事の"今"をたずねる取材はとても楽しいものでした。人や社会にくらべて自然の変化はゆったりとしていますね。(朋)
- ヒマラヤスギのまつぼっくりはバラの形で美しく、12月には花炭も体験しました。今回のアケボノスギの取材がきっかけで、スギに興味を持ちました。(武)
- 150号の編集に携わり、初期の号と比べると皆さんのみどりを守ろうと言う事が見えて、大変良かったです。(茂)
- 新型インフルエンザの話題が下火になり安心していたら、ひどい風邪を引いてしまいました。皆さん、風邪には注意しましょう。(淳)
- 150号という記念すべき節目に編集員の一人として携わることができ、大変嬉しいかぎりです。「みどりの新聞」の向上を目標に、これからも頑張ります。(山)

みどりの新聞　みどりとひと150号　平成22年1月20日発行
編　　集／みどりのボランティア
編集・発行／杉並区都市整備部みどり公園課　〒166-8570　杉並区阿佐谷南1-15-1　☎ 03−3312−2111
「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。http://www.city.suginami.tokyo.jp/
PRINTED WITH SOY INK 大豆インク使用　kenaf ケナフ紙使用